

# 分析結果報告書〔4〕 1 / 2

## 2.2 排ガス試料(窒素酸化物)

機関コード	
機関名	
電話番号	
国際的な認証等の取得 (複数回答可)	1. ISO 9001~9003 2. ISO 14001 3. ISO/IEC 17025(ガイト'25) 4. MLAP 5. 環境省が実施するダイオキシン類の請負調査の受注資格
分析担当者名	
分析担当者の経験年数	( )年
分析担当者の実績 (年間の分析試料数)	( )

測定回数	注1)	( )
------	-----	-----

注1) 分析用試料のはかり取りから吸光度等の測定までの一連操作を行った回数(1~5の整数)を記入する。  
この測定回数分の分析結果を次の表<分析結果>に記入する。

回数 注2)	分析結果(volppm) 注2)	
	検出下限値以上 注3)	検出下限値未満での検出下限値 注4)
1回目		
2回目		
3回目		
4回目		
5回目		

注2) 上記で記入した測定回数分の分析結果を記入する。

一旦受領した結果については、訂正があっても受け付けませんので、記入間違いや単位間違い等に注意する。

注3) 検出下限値以上であった場合、分析結果を有効数字3桁で記入する。

注4) 検出下限値未満であった場合、検出下限値を有効数字1桁で記入する。

分析開始月日	月 日
分析終了月日	月 日

分析方法	1. 亜鉛還元ナフチルエチレンジアミン吸光光度法(Zn-NEDA法) 2. ナフチルエチレンジアミン吸光光度法(NEDA法) 3. イオンクロマトグラフ法 4. フェノールジスルホン酸吸光光度法(PDS法) 5. その他( )
分析に使用した水	1. 蒸留水 2. イオン交換水 3. 超純水 4. その他( )

### < 試料溶液の調製 >

方法	1. 真空フラスコ法 2. 注射筒法 3. その他( )
方法1又は2の場合 試料(ガス)分取量 注5)	( )ml
NOの酸化	1. オゾン 2. 酸素 3. その他( )
定容量(試料溶液の量)	( )ml
試料(ガス)分取量 注6)	( )ml
(標準状態における乾きガス量)	

注5) 「真空フラスコの内容量(ml)」又は「注射筒に吸引した試料ガスの採取目盛(ml)」を記入する。

注6) 「標準状態(0、101.32KPa)における乾きガス量(ml)」を記入する(真空フラスコの内容量又は注射筒に吸引した試料ガスの採取目盛から算出する)。

# 分析結果報告書〔4〕 2 / 2

< 吸光光度法 >

試料溶液の分取量	( )	ml	
吸収セルの光路長	( )	mm	
波長	( )	nm	
試料の指示値	1 回目	( )	
注 7)	2 回目	( )	
	3 回目	( )	
	4 回目	( )	
	5 回目	( )	
空試験の吸光度	( )		
検量線の作成	作成点数	( )	
	作成範囲 (量)	最小 ( ) ~ 最大 ( )	
	(単位)	( )	
	最高濃度の吸光度	( )	

注 7) 測定回数分の指示値を記入する。

< イオンクロマトグラフ法 >

試料溶液の希釈 (希釈倍率)	( )	μl	希釈しない場合は希釈倍率 = 1 とする
注入量	( )	μl	
試料の指示値	1 回目	( )	
(硝酸イオン)	2 回目	( )	
注 7)	3 回目	( )	
	4 回目	( )	
	5 回目	( )	
試料の指示値	1 回目	( )	
(亜硝酸イオン)	2 回目	( )	
注 7)	3 回目	( )	
	4 回目	( )	
	5 回目	( )	
空試験の指示値	硝酸イオン	( )	
	亜硝酸イオン	( )	
検量線の作成	作成点数	( )	
硝酸イオン	作成範囲 (濃度)	最小 ( ) mg-NO <sub>3</sub> -/l ~ 最大 ( ) mg-NO <sub>3</sub> -/l	
	最高濃度の指示値	( )	
亜硝酸イオン	作成点数	( )	
	作成範囲 (濃度)	最小 ( ) mg-NO <sub>2</sub> -/l ~ 最大 ( ) mg-NO <sub>2</sub> -/l	
	最高濃度の指示値	( )	
装置	1. サプレッサー付き 2. サプレッサーなし		

注 7) 測定回数分の指示値を記入する。

分析実施にあたっての留意した点 及び問題と感じた点	
------------------------------	--

計算式	
-----	--